

製品名: IBPL1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12331**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	30kDa

抗原情報

遺伝子名	IGFBPL1 IGFBPRP4
別名	
遺伝子 ID	347252.0
SwissProt ID	Q8WX77
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

背景

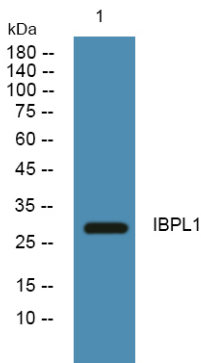
機能:IGF 結合タンパク質は IGF の半減期を延長し、細胞培養において IGF の増殖促進効果を阻害または刺激することが示されています。IGF と細胞表面受容体との相互作用を変化させます（類似性による）。腫瘍抑制タンパク質の可能性がある。誘導:複数の腫瘍で

ダウンレギュレーションされている。類似性:1つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含む。類似性:1つのIGFBP N末端ドメインを含む。類似性:1つのKazal様ドメインを含む。組織特異性:脳と精巣の両方で最も高く発現し、前立腺、膀胱、肺ではより低いレベルで発現している。機能:IGF結合タンパク質はIGFの半減期を延長し、細胞培養においてIGFの増殖促進効果を阻害または刺激することが示されています。IGFと細胞表面受容体との相互作用を変化させます(類似性による)。腫瘍抑制タンパク質の可能性はある。誘導:複数の腫瘍でダウンレギュレーションされている。類似性:Ig様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを1つ含む。類似性:IGFBP N末端ドメインを1つ含む。類似性:Kazal様ドメインを1つ含む。組織特異性:脳と精巣の両方で最も高いレベルで発現し、前立腺、膀胱、肺では低いレベルで発現している。、

研究分野

-

画像データ



SW480細胞溶解液のウェスタンブロット分析、IBPL1ウサギポリクローナル抗体を1:1000に希釈し、4°で一晩